

自分の夢が叶う日に

真島 勝彦

1989年9月10日、帝王切開で生まれた長男以明（いざや）は体重1920グラムで、最初息をしていなく大変心配しました。しかし、その後は元気に育ち、活発で好奇心旺盛な性格から中学で柔道、大学ではラグビーをやり通し、高校、大学時代にはバンドを組んで、友達も多かった。小学校時代からの夢は警察官になることで、人のために働きたいと選んだ仕事でした。北海道教育大学札幌校の学生の時には教員になることも考えたようですが、最後は自分の夢を貫きました。



青空がきれいな2010年7月4日、日曜日の朝でした。

その日は警察官採用二次試験の受験日で、高ぶる緊張感からか息子は朝早くから起き出していました。家の周りをランニングして朝風呂に入り、散歩しにいきました。後日、道警に開示請求して分かった一次試験の成績は、男子2087人中28番で、あと少しで自分の夢が叶うという日でした。

5時半過ぎ散歩から戻ると、戸口で、スーツ姿の以明は「ちょっと行ってくる」と言い残して家を出ましたが、しばらく経っても戻って来ないので6時過ぎには自宅周辺を探しましたが見つかりませんでした。

それで、もしかしてと思いコンビニのある交差点に、車で向かいしました。すると警察官が交通事故の現場検証をしており、近寄ってみると歩道脇に壊れた息子の自転車が目にとまりました。

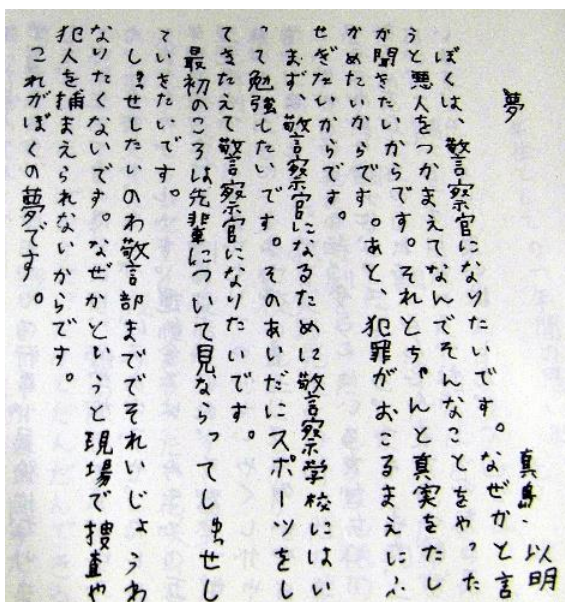
息子は赤信号を故意に無視し、スピードも落とさず交差点を通過しようとした大型トラックに跳ね飛ばされました。交差点手前に6台の車が赤信号で止まっているのに、空いていた真ん中の車線から交差点に突っ込み、青信号に従い注意しながら慎重に歩道を渡っていた息子を自転車もろとも跳ね飛ばしたのです。

何としても生きたかったのでしょうか。救命措置で心臓が再び動き出し、私たちを病院で待っていてくれました。しかし数時間後、突然の理不尽な暴力で受けた脳挫傷と肺挫傷、全身の骨折を治療する間もなく逝ってしまいました。違反はしたことがないと言っていた加害者は、交通違反を3年間で10回していました。

夢を実現する採用試験の当日、故意に信号を無視した危険運転のトラックによって命を奪われました。運転手は2012年2月末、道内最初の裁判員裁判で審理され、危険運転致死罪が認定され加害者は刑務所に行きましたが、息子は帰ってきません。

若し息子が生きていれば、警察官として交通法規は命を守る決まりであること、「人の命を守る運転」を呼びかけているに違いありません。

「癒されぬ輪禍」道警交通部編より 2020年改訂



夢

真島 以明

ぼくは警察官になりたいです。なぜかと言うと悪人をつかまえてなんでそんなことをやったか聞きたいからです。それとちゃんと真実をたしかめたいからです。あと、犯罪がおこるまえにふせぎたいからです。

まず、警察官になるために警察学校にはいつて勉強したいです。そのあいだにスポーツをしてきたえて警察官になりたいです。

最初のころは先輩について見ならってしゅっせしていききたいです。

しゅっせしたいのわ警部まででそれいじょうわなりたくないです。なぜかという現場で捜査や犯人を捕まえられないからです。

これがぼくの夢です。